

阪神淡路大震災について

今から 28 年前の 1 月 17 日早朝 6 時頃、阪神淡路大震災が起きました。その時の先生は大阪に住んでいたの、少しその体験を聞いてください。

まず、寝ていると背中をドーンと突き上げられるような揺れで目が覚めました。

生まれて初めての激しい揺れでしたので、収まるまでは布団をかぶり落ちてくる物から頭を守りました。ようやく揺れが収まった後、寝室を出ると大きなテレビが飛んでいました。幸い、テレビは壊れていなかったの、元に戻して、テレビを付けると神戸の街が火の海になっていました。

その後仕事で当時電車が通っていた大阪と神戸の間にある西宮北口という駅まで行きました。当然西宮も被災していたのですが、一番びっくりしたのは街の匂いでした。火事後の木が燃えた匂いとゴミとトイレの匂いが混じったそれは何とも言えない匂いがとても印象に残っています。その時感じたことは「日々の暮らしはなんて脆いものなのか」ということでした。

規模や被害の程度は大きく違いますが、今、新型コロナウイルスにより、明日という日の安全が保証されない状況になっています。

言い換えれば地震と同じとも言えます。始業式でもお伝えしましたが、今ほど「今日やれることは今日に済ませる」ことが大切な時はないかもしれません。それを再確認する意味でも校長先生は今日、阪神淡路大震災の話をさせていただきました。

これで校長先生の話が終わります。